

変更理由書

中津川市では、(仮称)リニア岐阜県駅周辺を「広域交通拠点」に位置づけ、平成29年4月に2か所の駅前広場を含む4路線の都市計画道路の決定を行い、その後も引き続き関係機関と新たなまちづくりに向けた協議調整・検討を進めている。

市の都市計画マスタープランにおいては、リニア岐阜県駅周辺については都市拠点との連携・機能分担を図りながら商業機能をコンパクトに配置し、岐阜県の新たな東の玄関口としての機能整備を推進することが位置付けられており、JR 東海によりリニア岐阜県駅の改札階が地上に変更される等、リニア岐阜県駅の計画内容がより具体化する中で、駅の当初設定された機能配置に変更が生じたことから、中津川市が令和元年度より中津川市リニア岐阜県駅周辺デザイン会議の中で駅前広場や駅周辺を含めたエリアデザインの検討を行っており、駅前広場の配置等についての見直しの結果を踏まえ、以下の2路線の変更を行うものである。

3・5・19号リニア岐阜県駅停車場線の駅前広場は、平成28年3月に策定された「リニア岐阜県駅周辺整備概略設計」により整理された駅前広場の配置に基づき、8,500m²にて都市計画決定されている。

中津川市リニア岐阜県駅周辺デザイン会議にて、地上部からの恵那山への眺望を確保し、また、エリアデザイン検討において、地域住民の憩いや来訪者のおもてなしの広場として駅前広場における最低限必要な機能について自動車交通と歩行者交通の機能を再整理するとともに、駅前広場に隣接して計画されていた親水公園を、河川治水と親水性を両立するよう配置の見直しを行うことが決定したことから、検討結果に合わせ、面積約7,800m²で駅前広場の変更を行うものである。

3・4・22号リニア岐阜県駅北口通線の駅前広場は、平成28年3月に策定された「リニア岐阜県駅周辺整備概略設計」により整理された駅前広場の配置に基づき、3,500m²にて都市計画決定されている。

中津川市リニア岐阜県駅周辺デザイン会議にて、リニア中央新幹線により南北に分断される地域を自由通路も含めた広場空間で一体的につなぐことで、日常的な近隣住民の憩いやイベント時のにぎわいを生み出すとともに、リニア中央新幹線北側周辺地域へのにぎわいの波及向上を図るため、(都)中洗井線までのライン状の広場空間を含めて駅前広場として配置することが決定したことから検討結果に合わせ、面積約4,400m²で駅前広場の変更を行うものである。